小さな赤いビー玉（1975）

UN SAC DE BILLES

メディア　映画
ジャンル　ドラマ　戦争　ファミリー
製作国　フランス
色彩　Color
時間　100分
初公開日　1977/06/11
公開情報　富士
リバイバル　2000/06［ザジフィルムズ］

【キャッチコピー】
赤く透明なビー玉のように　無邪気な少年の心が　小さな恋と冒険をさそう…
さわやかな涙と笑いが感動を呼ぶ　「禁じられた遊び」以来のフランス映画珠玉の名篇！
お兄ちゃん　がんばって　ナチスなんかに負けないぞ！　ママのところへ帰るんだ

【解説】
　ドワイヨンの長篇第二作は、その後の彼らしからぬ（「ピストルと少年」までは）、ナチ占領下のパリ近郊を舞台にしたユダヤ人兄弟の物語。彼自身の企画ではなく、会社の依頼で彼が演出を担当した作品だが、とてもひなびた郷愁を誘う“少年期もの”とは言えず、硬質な描写力で、戦争の現実に剥き身で直面し逞しく生き抜こうとする少年たちを的確に捉え、厳しさと共に深い余情を漂わす作品だ。’
４１年、クリニャンクールの町にもドイツ軍がうろつき始めていた。そこで床屋を営むユダヤ人のジョッフォは一家に危険の迫るのをひしひしと感じ、まず子供たちを非占領地域下に送り込むことを考える。四人兄弟のうち先に上の二人を南仏に発たせ、学校終了後、１２歳のモーリスと１０歳のジョゼフも南仏へ向かわせた。列車の中では早速検問が……。しかし、隣り合わせた神父の機転でなんとか切り抜ける二人。いよいよ非占領域に通じる道を往く。ここでもパン屋の青年の助けでパンを運ぶ巨大な篭の中にもぐり込み、歩哨の目をごまかして越境に成功する。そして行く先々、畑仕事や乳搾りを手伝っては空腹をしのぎ、二人の兄の持つマントンへと歩み続けた。だが、南仏も決して安全な場所ではない。独軍の代わりにここでは伊軍の目が光っていた。ある日、割礼の有無を調べられた彼らは道に抑留され、過酷な労働を課される。そんな中にも、フランソワーズというユダヤ少女と知り合った二人は彼女にほのかな恋心を抱くのだった。が、彼女の父親はナチス協力を問われ惨殺される。やがて、逃げ出した兄弟は無事兄たちに合流。そこへ父母も無事到着した。なのに……。全体に戦争の痛ましさを冷静に見つめる中、少女フランソワーズとの交流がほのかに暖かく胸に残る。

【クレジット】

監督	ジャック・ドワイヨン	Jacques Doillon
原作	ジョセフ・ジョッフォ	Joseph Joffo
脚本	ジャック・ドワイヨン	Jacques Doillon
	ドニ・フェラリス	
撮影	イヴ・ラファイエ	Yves Lafaye
音楽	フィリップ・サルド	Philippe Sarde
出演	リシャール・コンスタンティーニ	
	ポール＝エリック・シュルマン	
	ドミニク・ダブロ	
	ジル・ローラン	Gilles Laurent

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.